

文化財をたずねて

No.8 改訂版

赤穂義士ゆかりの47箇所めぐり

発行 赤穂市教育委員会

編集 文化財課 文化財係

(赤穂市加里屋 81 TEL:43-6962 FAX:43-6895)

①赤穂城跡

赤穂城は、正保2(1645)年に常陸国笠間(現在の茨城県笠間市)から53,500石で入封した浅野長直が、近藤三郎左衛門正純に築城設計を命じ、慶安元(1648)年から寛文元(1661)年までの13年を費やして完成させた城である。その縄張は甲州流軍学によってなされたといわれ、本丸と二之丸は輪郭式に、二之丸と三之丸は梯郭式となる海岸平城である。

この城を築城した浅野家は、元禄14(1701)年の江戸城中の刃傷事件によって断絶し、その後は永井家を経て森家の居城となり、明治の廃藩置県を迎えた。これによって城内は民有地となり城郭遺構もかなり改変を受けたが、昭和46(1971)年には国史跡に指定され、以後計画的に公有化と整備が進められている。

②本丸・本丸門・庭園

本丸の面積は約15,114㎡を測り、郭内には天守台、御殿、番所、倉庫等の付属建物、池泉等があった。

本丸の表玄関となる本丸門は、一の門である櫓門と二の門である高麗門を備えた枳形門である。門は廃城後取り壊されたが、平成4～8(1992～1996)年にかけて復元された。

藩邸である御殿は大きく表・中奥・奥に分けられる。表御殿は藩庁としての公的施設、中奥は藩主の私的な空間、奥御殿は奥方・女中達の施設であった。

この御殿の南面には大池泉があり、昭和59(1984)年の発掘調査によって全容が明らかにされ、現在は検出遺構をもとに復元整備されている。池泉は東西38m、南北26m、外周約150mの規模を持ち、中島、入江、岬を備え、護岸汀線は直線、曲線を巧みに組み合わせている。中奥には舟形池泉を備えた坪庭が設けられていた。

本丸の北西隅では、昭和63(1988)年の発掘調査によって池泉跡が検出された。池泉跡からは陶磁器類や下駄・漆椀・木簡などの木製品が多量に出土した。木簡には「浅野内匠頭」「大石内蔵助」などの名を記したものがある。これらの木簡の一部は現在赤穂市立歴史博物館で常設展示されている。



赤穂城本丸門

③大石頼母助屋敷跡

二之丸門を入ると右手には大石頼母助良重の屋敷があった。頼母助は大石内蔵助良雄の大叔父に当たる人物で家老職にあった。妻は藩主浅野長直の長女鶴姫で、四男一女をもうけた。頼母助は長直に重用され、赤穂においては二之丸に屋敷を賜った。古文書には「二ノ丸ニ屋敷ヲ賜フ 長サ四町、築山、泉水等大ニ設ク」とある。屋敷跡は平成10～11(1998～1999)年に発掘調査が実施され、土堀基礎石垣や建物礎石などの遺構が検出された。

④山鹿素行像

儒学者であり兵学者であった山鹿素行は、浅野長直に禄1千石で召し抱えられ江戸において藩士に文武を講じた。承応2(1653)年9月から翌年5月まで赤穂に滞在し、その間に築城中であった赤穂城の二之丸門付近の縄張を一部変更し、また藩士に兵法指南をするなどその手腕を発揮した。その後寛文6(1666)年に著書『聖教要録』が幕臣の問題とするところとなり、赤穂藩へ配流の身となる。赤穂においては二之丸の大石頼母助屋敷の一角で8年余りの謫居生活を送っており、その頃の様子は著書『年譜』からうかがい知れる。これによれば謫居の身ながら厚くもてなされ、饗応を受けたり頼母助屋敷の裏手にある錦帯池での遊興を楽しむこともあったという。

山鹿素行像は大正14(1925)年に大石頼母助屋敷跡に建立され、第二次世界大戦中の金属供出を経て昭和33(1958)年に再建された。そ



山鹿素行像



赤穂大石神社



大石良雄宅跡長屋門



近藤源八宅跡長屋門



武家屋敷公園



赤穂市立歴史博物館

の後、平成 10（1998）年に二之丸整備事業に伴い二之丸門跡付近に移設され現在に至っている。

⑤塩屋門跡

搦手となる塩屋門は枡形と高麗門から構成されていた。枡形内には太鼓櫓があり、塩屋門の外に展開する侍屋敷に向け合図を発したという。枡形石垣は現在もよく残り、枡形内部の雁木坂や枡形外面の複雑な折れなど特徴ある構造を今も見る事ができる。

なお、塩屋門は藩主浅野内匠頭長矩の刃傷事件を知らせる早かどがくぐった門として、また城明け渡しの際に備中足守藩木下肥後守が入城した門として知られる。

⑥赤穂大石神社

大石神社は、三之丸の一部の大石内蔵助及び藤井又左衛門の屋敷跡に大正元（1912）年に建立された。主祭神は赤穂義士四十七士及び萱野三平・浅野家 3 代・森家の先祖 7 代の武将。境内には義士宝物殿があり、義士ゆかりの資料が展示公開されている。また義士木像奉安殿は昭和 28（1953）年に設立され、浅野内匠頭長矩や大石内蔵助良雄をはじめとする義士の木像が展示されている。

⑦大石良雄宅跡（長屋門・庭園）

大石家は代々浅野家に仕えた重臣で、赤穂入封から赤穂浅野家が断絶するまで家老として大手門付近の一面に屋敷を構えていた。屋敷地は間口 28 間、奥行 45 間余りの広さを誇り、庭には池泉も造られていた。屋敷地は大正 12（1923）年に国史跡に指定されている。長屋門は安政 3（1856）年の大修理を経たのちも様々な改修がなされたが、城内に残る数少ない江戸時代建造物のひとつであり、昭和 54（1979）年には解体修理が行われ、安政期当時の姿に復元された。

⑧近藤源八宅跡長屋門

赤穂城の設計を担当した近藤三郎左衛門正純の子、近藤源八正憲の屋敷の長屋門である。近藤源八は父の跡を継いで甲州流軍学を修め、浅野家の軍師として千石番頭の重職にあった。その屋敷は間口 33 間、奥行 31 間もの広大なものであったという。長屋門はその 3 分の 1 が改変を受けながらもかろうじて保存されており、平成 10（1998）年 4 月 27 日に赤穂市指定文化財（建造物）となった。その後現存建物の解体修理と発掘調査が行われ、平成 11（1999）年 4 月から（土・日・祝日のみ）一般公開されている。

⑨武家屋敷公園

清水門の西側に位置し、浅野時代には坂田式右衛門の屋敷があった。昭和 58（1983）年に門と瓦葺き土塀を復元し、内部は屋敷建物の間取り表現を行ったほか、井戸屋形や四阿などを設けている。なお西側には芝生広場が整備されている。

⑩清水門跡

「川口門」とも呼ばれた清水門は、刃傷事件後の赤穂城明け渡しの際、大石内蔵助良雄が最後に城と惜別した舞台として知られる門である。門外には熊見川（現加里屋川）沿いに米蔵・薬煙場・番所などがあり、米蔵の一部は昭和 61（1986）年に発掘調査された。この米蔵のあった場所には現在赤穂市立歴史博物館がある。平成 3（1991）年には門前面の橋台石垣の発掘調査と復元整備が行われた。

⑪赤穂市立歴史博物館

赤穂城の清水門の外にあり、往時には米蔵があった。外観は米蔵にちなんだ白壁の土蔵風の建物で、「塩と義士の館」として平成元（1989）年に建設された。常設展示は、国指定重要有形民俗文化財の「赤穂の製塩用具」を中心に「赤穂の塩」、模型・絵図・出土遺物からみた「赤穂の城と城下町」、史実と文化の両面からとらえた「赤

穂義士」、出土遺物と映像で説明する「旧赤穂上水道」の4つのテーマから構成される。

⑫萬福寺

真宗大谷派の寺院で、山号を大嶋山と称する。もと英賀^{あが}（姫路市）に建立されていたが、那波大島（相生市）を経て天正年間（1573～1592）に赤穂城下の西の押さえとして加里屋に移された。この地は、のちに一町目から寺町までに広がる町家の主要部分を門前町とするような配置となっている。元禄15（1702）年には大石内蔵助良雄から金30両の寄進を受けている。

寺には堀部弥兵衛・不破数右衛門・矢頭右衛門七・間喜兵衛・大高源五（吾）などの義士の書が多く残されている。

⑬大蓮寺

加里屋西端に位置する浄土宗の寺院で、山号を照満山と称する。もとはJ R播州赤穂駅北方の山麓にあったと伝えられ、城下町が形づくられるとともに加里屋に移された。加里屋最古の寺院である。特に浅野赤穂藩二代目藩主であった浅野長友の夫人戒珠院^{かいじゆ}の帰依^{きえ}を受け、元禄15（1702）年の赤穂城開城の際にはその御墓料として田地4反6畝4歩が寄進されている。境内には戒珠院の墓があるほか、大石内蔵助良雄の寄進と伝えられる稻荷神社と石灯籠がある。なお、山門は平成16（2008）年4月に市指定文化財となっている。

⑭花岳寺

正保2（1645）年に浅野長直が父華岳院^{ぼくがい}と母台雲院の菩提寺として建立し、その法名から台雲山華嶽寺と称した。曹洞宗永平寺末寺。以後歴代赤穂藩主となる永井家、森家の菩提寺でもある。

境内には、浅野家墓碑、森家墓碑、赤穂浪士47人の墓碑、義士宝物館、義士木像堂、大高源五（吾）の句碑等があり、赤穂藩や義士関連資料が数多く保存されている。本堂天井には江戸末期^{ほつ}の法橋^{きやう}、長安義信^{のぼり}による幟絵『竹に虎』が貼られている。山門はもと城下町の西惣門であったものを明治6（1873）年に花岳寺二十一代仙珪和尚が購入移築したものであり、平成元（1989）年3月に市指定文化財となっている。また、赤穂城の縄張を行った近藤正純の墓が妙慶寺から移されている。

⑮高光寺

法耀山高光寺は、もと大津村にあって妙典寺と称していたが、寛永17（1640）年に現在地に移された日蓮宗の寺院である。明暦3（1657）年には赤穂藩主浅野長直から本尊の寄進を受け、寛文2（1662）年には長直夫人の菩提寺となり、延宝2（1674）年にその法名高光院を用いて寺号を改めた。元禄15（1702）年の赤穂城開城の際には高光院の御墓料として田地5反2畝5歩が寄進された。

なお寺には原惣右衛門が奉納した直筆の『法華経』8巻、大石内蔵助良雄の面の『大黒天画像』、浅野家寄進の『三十番神画像』『鬼子母神 十羅刹女画像』のほか、義士の位牌、浅野長矩愛用の蹲が残されている。

⑯福泉寺

寛文5（1665）年に開創された法華宗^いの寺院で、山号を長遠山と称する。境内には茅野和助の父及び子猪之助の墓があるほか、大石頼母助の書簡が伝えられている。

なお、幕末の文久事件により藩政から退けられた村上真輔の次男河原駱^{らく}之助が藩領外へ立ち退く途中、襲撃^{しゅうげき}の企てがあることを知り福泉寺で自害しており、境内にはその墓がある。

⑰息継ぎ井戸

江戸での浅野内匠頭による刃傷事件の第一報を知らせるため、元



萬福寺



大蓮寺



花岳寺



高光寺



福泉寺



息継ぎ井戸



随鷗寺



常清寺



旧赤穂上水道モニュメント



大石内蔵助良雄像（JR 播州赤穂駅前）

禄 14（1701）年 3 月 14 日 夕刻に赤穂藩士早水藤左衛門・萱野三平が早かごで江戸を出発し、赤穂城下に着いたのは 3 月 19 日の早朝であった。彼らは、155 里（約 620 km）の行程を 4 昼夜半早かごに揺られ続け事件の第一報を知らせた。城下に着いた両人は、この井戸の水を飲んで一息ついてから、家老である大石良雄邸の門を叩いたと言われ、以来この井戸を「息継ぎ井戸」と呼ぶようになった。

⑱ 遠林寺跡

池田時代の臨済宗玄興寺を浅野時代に真言宗遠林寺と改め、浅野家の祈願所、赤穂藩水軍の屯所とされた。山号は明王山と称した。赤穂城築城の際、城の鎮守として愛宕山社を建立し、その修法を行ったのが遠林寺開山法印秀栄であった。明治 14（1881）年に廃寺となる。

赤穂浅野家断絶後に御用会所となったこの寺で、大石内蔵助が開城の残務処理を行っている。また大石内蔵助が、住職の祐海和尚を通じて將軍綱吉の母桂昌院にはたらきかけ、浅野家再興を図った。

現在は廃寺となり、本堂は御崎の広度寺に移築されている。

⑲ 随鷗寺

元和 2（1616）年に開創された臨済宗の寺院で、山号を江西山と称する。その開山の雲甫は不生禅を確立した盤珪の師である。寺の裏は熊見川（現加里屋川）に面し、浅野時代には遠林寺とともに水軍の屯所としての役割も担っていた。

境内の墓地には義士の肉親や近藤源八の墓がある。

⑳ 常清寺

慶安年間（1648～1655）に開創された真言宗の寺院で、山号は春日山と称する。もとは東性寺といったが浅野長直の三回忌の延宝 3（1675）年に長直の法号をとって寺号とし常清寺と改名した。城下町の東北隅に位置し、城下町の東惣門の押さえとしての役割をもっていたという。

寺には浅野家からの寺領寄進状が残されている。

㉑ 旧赤穂上水道モニュメント

元和 2（1616）年に完成した切山隧道から城内までの上水道は、以後近年にいたるまで城下町の暮らしを支えてきた。この上水道については、発掘調査や通水調査、改修工事等によってそのシステムが明らかになっている。旧赤穂上水道の歴史的意義を記念し、その保存と活用のシンボルとして昭和 57（1982）年にモニュメントが設置された。モニュメントは山崎山山麓・駅前通り・お城通り・大手前公園の 4 箇所にあり、赤穂を潤してきた上水道のイメージを表現している。

㉒ 大石内蔵助良雄の像（JR 播州赤穂駅前）

JR 播州赤穂駅前のロータリーに建つ「大石内蔵助良雄の像」は、昭和 58（1983）年 5 月に赤穂ライオンズクラブ認証 20 周年を記念して建立された。像高 2.2m のブロンズ像で、作者は二科会審査員であった高橋忠雄氏（故人）である。内蔵助は討ち入りの装束を身にまとい、手にもつ采配を大きく振り上げている。

㉓ 大石内蔵助良雄像（赤穂市役所 1 階ロビー）

赤穂市役所 1 階市民ホールに建つ「大石内蔵助良雄像」は、昭和 57（1982）年 5 月に市職員の提案により赤穂市役所新庁舎竣工を記念して設置された。像高は等身大の 1.75m のブロンズ製で、制作は兵庫彫刻家連盟会員の広嶋照道氏である。大刀を手に袴姿で建つ内蔵助は、秘めた意志と家中の意見をまとめ開城を決断した姿を表現している。

①赤穂城跡



①赤穂城跡

②本丸・本丸門・庭園

③大石頼母助屋敷跡

④山鹿素行像

⑤塩屋門跡

⑥赤穂大石神社

⑦大石良雄宅跡(長屋門・庭園)

⑧近藤源八宅跡長屋門

⑨武家屋敷公園

⑩清水門跡

⑪赤穂市立歴史博物館

赤穂義士宅跡石標、義士関連標柱・看板 □は討ち入りに参加した赤穂義士

①奥野将監

②坂田式右衛門

③岡林奎之助

④藤井又左衛門

⑤田中清兵衛

⑥片岡源五右衛門

⑦小山源五右衛門

⑧大石瀬左衛門

⑨鈴木重八

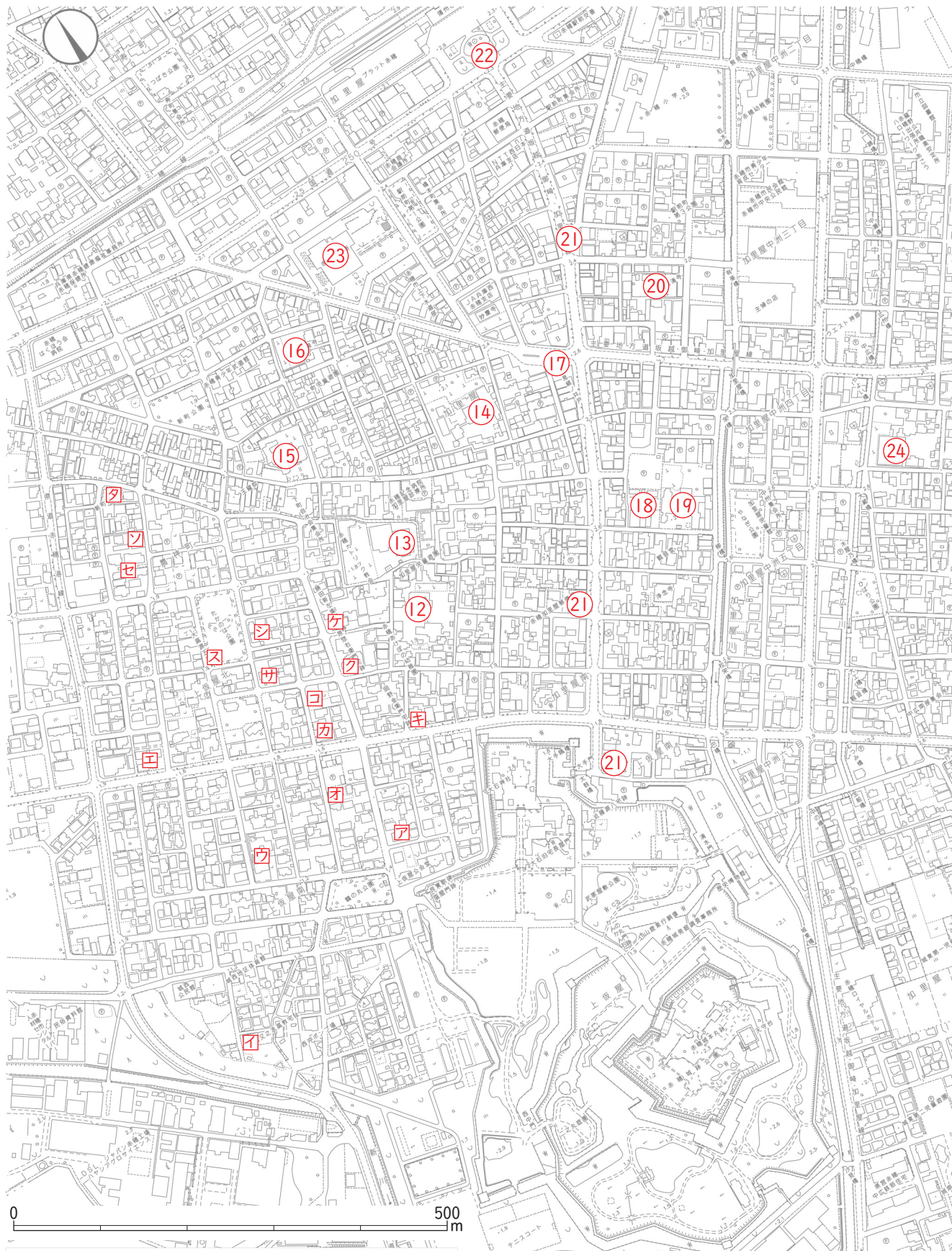
⑩田中貞四郎

⑪間瀬久太夫(寺井玄溪)

⑫大野九郎兵衛

⑬磯貝十郎左衛門(神尾専右衛門)

⑭寺井玄溪(間瀬久太夫)



- | | | | |
|------------------------|----------------|-----------------------|----------|
| ⑫ 萬福寺 | ⑬ 大蓮寺 | ⑭ 花岳寺 | ⑮ 高光寺 |
| ⑯ 福泉寺 | ⑰ 息継ぎ井戸 | ⑱ 遠林寺跡 | ⑲ 随鸕寺 |
| ⑳ 常清寺 | ㉑ 旧赤穂上水道モニュメント | ㉒ 大石内蔵助良雄の像(JR播州赤穂駅前) | |
| ㉓ 大石内蔵助良雄像(赤穂市役所1階ロビー) | ㉔ 永應寺 | | |
| 赤穂義士宅跡石標 | | | |
| ㊦ 千馬三郎兵衛 | ㊧ 潮田又之丞 | ㊨ 矢頭右衛門七 | ㊩ 中村勘助 |
| ㊪ 木村岡右衛門 | ㊫ 間喜兵衛 | ㊬ 岡野金右衛門 | ㊭ 原惣右衛門 |
| ㊮ 勝田新左衛門 | ㊯ 岡嶋八十右衛門 | ㊰ 不破数右衛門 | ㊱ 貝賀弥左衛門 |
| ㊲ 大高源五 | ㊳ 早水藤左衛門 | ㊴ 近松勘六 | ㊵ 菅谷半之丞 |



- ②⑤伝大石良雄仮寓地跡(おせど)
- ②⑧塩竈神社
- ③②伊和都比売神社
- ②⑨塩の国
- ③③大石名残の松

- ②⑥赤穂八幡宮
- ③⑩正福寺
- ③④大石内蔵助良雄之像(東御崎展望台)
- ②⑦如来寺
- ③①赤穂市立美術工芸館田淵記念館



③⑤ 日吉神社

③⑨ 浄専寺

④③ 木津 大避神社

④⑦ 黒尾 須賀神社

③⑥ 光浄寺

④⑩ 坂越 大避神社

④④ 神護寺跡

③⑦ 木生谷 三宝荒神社

④① 奥藤家

④⑤ 中山 大避神社

③⑧ 折方 八幡神社

④② 高取峠「早かご」モニュメント

④⑥ 西有年 大避神社

②④ 永應寺

延徳2(1490)年に開創された浄土真宗本願寺派の寺院で、「播磨六坊」のひとつに数えられ山号は朝日山と称する。浅野時代には米5石4斗4升が給付されていた。

寺には浅野長矩の遺品として、大石内蔵助良雄から寄進された喚鐘かんしやうとその際の寄進状が残されている。また、墓地には花岳寺の「忠義塚」の碑文の選者で、延享4(1747)年に『播州赤穂郡志』を著した藤江忠廉の墓がある。

②⑤ 伝大石良雄仮寓地跡（おせど）

赤穂八幡宮の東南にあり、通称「おせど」と呼ばれている。元禄期(1688～1704)頃、この地には大石内蔵助良雄の家扶妹尾孫左衛門もとや や そ えもんの兄元屋八十右衛門の屋敷があり、赤穂城開城の直前、大石内蔵助良雄は城内三之丸の屋敷からこの地へ移り、山科へ出立するまでの50日たらずをここで暮らした。

現在当地は市指定史跡となり、良雄が勧進したという稲荷社かんじん(大石稲荷)、昭和6(1931)年に建てられた「大石良雄仮寓地」の石碑があり、「ひょうたん池」や井戸跡の遺構が往時の庭を伝えている。また「牛石」「馬石」と呼ばれる巨石があり、もと赤穂城本丸の庭園にあったものと伝えられる。石は薩摩石といわれ、薩摩の島津家から浅野家に贈られたものともいう。

②⑥ 赤穂八幡宮

祭神は仲哀天皇・応神天皇じんぐう・神功皇后で、もと鳥撫村となでの銭戸島にあったものを現在の地に遷したと伝えられる。神仏習合から金光山神宮寺と呼び、浅野時代には寺領として30石を受けていた。明治3(1870)年の神仏分離により八幡神社と如来寺とに分かれ、昭和27(1952)年に古来の八幡宮に改めた。毎年例大祭の神幸式で演じられる獅子舞は「赤穂八幡宮獅子舞」として兵庫県指定文化財に、頭人行列は市指定文化財となっている。

八幡宮には、大石内蔵助良雄が貞享4(1687)年に寄進した灯籠・神酒德利一對・馬鞍と鐙・大石の画による布袋図絵馬・藤棚の屏風六曲右半双のほか、大石りく愛用の化粧箱、岡島八十右衛門・原惣右衛門・近藤正純などの書や書簡などが伝えられている。

②⑦ 如来寺

もと赤穂八幡宮の神宮寺(天台宗)であったが、神仏分離により明治3(1870)年に八幡宮から分離し如来寺と改めた。山号は金光山と称する。大石内蔵助良雄の画による藤棚の屏風六曲左半双が寺に残るほか、義士の書簡が赤穂市立歴史博物館に寄託されている。

②⑧ 塩竈神社

赤穂八幡宮の拝殿右側から宮山へ登る道(「信仰の道」)沿いに社殿が建てられている。祭神は志波彦神・塩土老翁神・武甕槌神・経津主神である。もとは東浜の塩田内にあったものを大正7(1918)年頃に現在の地に移したものである。その後金比羅神社と天神社も合祀された。拝殿には尾崎出身おしの法橋として著名な北条文信の画による義士画像図絵馬24面が奉納されていたが、施設老朽化に伴い平成20(2008)年に建て替えられ、絵馬は別所にて保管されている。

東隣の明王山普門寺は天台宗の寺院で、寺に安置される木造千手観音坐像は平安時代初期の作といわれ国指定文化財となっている。

②⑨ 塩の国(兵庫県立赤穂海浜公園)

浅野長直は入封後から塩田の拡張と製塩法の改良によって塩の増産につとめ、また塩の販路開拓と流通統制を実施することで藩を潤した。以後、製塩は赤穂藩の貴重な財源となった。

赤穂海浜公園内にある塩の国には、復元された塩田と製塩施設が



永應寺



伝大石良雄仮寓地跡（おせど）



赤穂八幡宮



如来寺



塩竈神社



塩の国



正福寺



赤穂市立美術工芸館田淵記念館



伊和都比売神社



大石名残の松

あり、入浜塩田での浜引き・潮かけ、釜屋で実演される製塩作業の見学や体験棟での製塩実習を体験できる。隣接する赤穂市立海洋科学館では、瀬戸内海と塩・海洋科学・赤穂の自然科学に関する幅広い資料が展示されている。

③⑩ 正福寺

曹洞宗の寺院で、浅野長直が正保3（1646）年に父母の菩提のため城下に一寺を建立したことに始まり、山号を補陀洛山と称する。寛文12（1672）年には浅野家の菩提寺である花岳寺内に移され、花岳寺の開山秀巖龍田大和尚の隠居寺となる。元禄14（1701）年に良雪和尚が現在の地に良雪庵を建て、宝永3（1706）年に寺号を正福寺と引き継ぐ。

この良雪和尚は大石内蔵助良雄に「君辱臣死」の名言を与え、元禄の快挙として世に伝わる討ち入りを果たさせたという。また、大石と良雪和尚は共に囲碁を愛し、「二良の対局」の寺として有名である。寺には、この対局の碁盤や、討ち入り前日にしたためられた大石の暇乞状をはじめ大高源五（吾）、小野寺十内・原惣右衛門・赤埴源蔵ほか数々の義士書状が残されているほか、大石が描いた両親の画像も保存されている。また境内に久岳庵が東海から移されており、浅野家三代の位牌が安置されている。

③⑪ 赤穂市立美術工芸館田淵記念館

田淵記念館は、江戸時代前期より塩田・塩問屋などを営んできた田淵家から赤穂市へ寄贈された美術品・古文書類を展示・保存する施設として平成9（1997）年に開館した。収蔵・展示されている美術品は日本画・書・茶道具・婚礼道具など多岐にわたり、なかでも茶道具はその数も多く、貴重なコレクションである。また大石内蔵助良雄の画と伝えられる絵が4幅ある。

記念館に隣接する田淵邸は、国名勝「田淵氏庭園」として指定されており、御崎山の傾斜地を巧みに取り入れた茶亭露地と書院庭園から構成された名園として著名である（庭園は原則として非公開）。

③⑫ 伊和都比売神社

赤穂市内唯一の式内社で、祭神は伊和都比売神である。もとは隣接する置岩の上にあったものを天和3（1683）年に浅野長矩が現在の地に移した。今も航海安全や大漁祈願・縁結びなどの厚い信仰を受けている。

③⑬ 大石名残の松

大石内蔵助良雄とその一家は赤穂城開城前から尾崎に仮住まいし、内蔵助良雄は開城後の残務処理を元禄14（1701）年の6月まで続けた。6月中旬には妻と子息を、自身は6月25日に京都・山科に向けて新浜港（御崎）から出立した。このとき船上からいくどとなく見返し、赤穂への名残を惜しんだのがこの松という。

現在、松は三代目となったが、平成10（1998）年5月に赤穂ライオンズクラブ認証35周年を記念し花崗岩の記念碑が設置された。

③⑭ 大石内蔵助良雄之像（東御崎展望台）

東御崎展望台に建つ「大石内蔵助良雄之像」は、昭和63（1988）年4月に寒川新・みねこ夫妻から赤穂市へ寄贈されたもので、作者は新構造社運営委員であった山名常人氏（故人）。像高3.6mのブロンズ製で、名残と覚悟を心に赤穂から去っていく旅装束の内蔵助をあらわしている。

③⑮ 日吉神社

浅野長直が笠間から入封した翌年の正保3（1646）年から、干拓による新田開発が行われ新田村が成立した。住民が定着し始めた承応元（1652）年、長直が五穀豊穡を祈願して近江の日吉大社から山

王宮^{のう かんじょう}を勧請し、同時に田地3反を寄進した。

また大石内蔵助良雄による絵画及び奉納と伝えられる絵馬がある。

③⑥光浄寺

光浄寺は、もとは萬福寺内にあった寺家で天文13（1544）年に永順によって開基されたという真宗大谷派の寺院である。山号は戸嶋山。

浅野時代から始まった新田開発と村への住民定着により、森時代の新田村は1,500石余の大きな村となったが、村内に一寺もない状態であったため享保21（1736）年に村役一同から寺建立の願書を萬福寺に提出し、同寺より藩に願い出て許可を得て、現在の地に元文2（1737）年に堂宇が建立され阿弥陀如来像が安置された。

寺には市指定文化財となっている赤穂浅野家三代の木造坐像が祀られており、その彫成及び表現から京都の仏師系の手による18世紀後半の製作と推定されている。

なお、地域の人々はこの寺を「たくみさん」と呼んで親しみ、毎年初代藩主浅野内匠頭長直の命日である8月24日には法要が営まれている。

③⑦木生谷 三宝荒神社

祭神は三宝荒神で、境内神社に稲荷神社がある。絵馬堂には四十七士に萱野三平を加えた48面の義士画像図絵馬があり、赤穂市指定文化財となっている。絵師は赤穂出身の法橋として著名な長安義信である。大石内蔵助良雄像には奉納年が、各絵馬に奉納者が記され、それによれば慶応元（1865）年に三宅源兵衛をはじめ木生谷及びその近在の人々によって奉納されたことがわかる。この絵馬は義士画像図絵馬のなかでも、赤穂藩領にある唯一の江戸時代の絵馬である。

③⑧折方 八幡神社

祭神は応神天皇で、境内には荒神社・権現社・天神社を祀っている。

拝殿には明治45（1912）年に奉納された47面からなる義士画像図絵馬がある。画師は法橋の北条文信で、文信71歳の作である。

③⑨浄専寺

浄土真宗本願寺派の寺院で、山号を大成山と称する。義士のひとり中村勘助が赤穂城開城後に隣村の木生谷に仮住まいしたとき、浄専寺の住職と親交があった。勘助が江戸に下るときに、自作自筆の位牌を同寺に納め、死後の法会を依頼したと伝えられ、今もその位牌が祀られている。

④⑩坂越 大避神社

祭神は秦河勝・天照皇大神・春日大神である。神社の創立時期は明らかではないが、平安時代末期から鎌倉時代前期頃には、播磨の主要な24社に数えられるほど有力な神社となっていた。神社には18世紀以降の船絵馬等のほか、明治17（1884）年に奉納された「忠臣蔵役者番付」がある。

毎年秋に行われる祭礼、「坂越の船祭」は国指定無形民俗文化財となっている。神社眼前の坂越浦には古来神地とされてきた生島があり、その樹林は国指定天然記念物となっている。また、島には神社の御旅所・県指定文化財の祭礼用和船を納める船倉・祭神秦河勝の墳墓と伝えられる生島古墳がある。

④⑪奥藤家

奥藤家は近世以降に廻船業などで富を成した商家である。「大道」と呼ばれた道に面し、妻入りに建つ大規模な入母屋造りの家屋は、築300年といわれ、往時は西国大名の本陣にあてられた。酒倉は寛文年間（1661～1673）の建築で、石垣による半地下式の構造をもつ。



日吉神社



光浄寺



木生谷 三宝荒神社



浄専寺



坂越 大避神社



奥藤家



木津 大避神社



神護寺跡



西有年 大避神社



黒尾 須賀神社 義士画像図絵馬

奥藤家が所蔵していた義士関係資料に「井口半蔵・木村孫右衛門連署起請文」がある。討ち入りを決意した大石内蔵助は同志を選ぶため、提出させた起請文を返し戻すことで、その反応から本人の真意を確かめた。そのとき、返された起請文がこれである。現存する唯一の起請文であることから、市指定文化財に指定され、赤穂市立歴史博物館で保管・展示されている。

④2 高取峠「早かご」モニュメント

国道 250 号の赤穂と相生の両市の境、ちょうど現在の高取峠頂上付近の小公園に、江戸城での刃傷の凶報を知らせる早かごをイメージしたモニュメントがある。高さ 4 m、幅 5.6 m、奥行き 1.5 m の強化プラスチック製で、平成 2 (1990) 年に兵庫県上郡土木事務所 (当時) が緑のランドマーク事業として設置したもので、令和 5 (2023) 年、地元有志により修復された。

④3 木津 大避神社

祭神は秦河勝。社殿は山裾に南面して建つ。拝殿には 40 面の義士画像図絵馬が奉納されているが、画師・奉納年は不明である。

④4 神護寺跡

鎌倉時代初期に文覚が開創したと伝えられる天台宗の寺院で、山号を高雄山と称する。寺には寛文 6 (1666) 年に浅野長直によって奉納された「三十六歌仙絵扁額」(赤穂市立歴史博物館保管/赤穂市指定文化財)があった。扁額裏に残された銘によると、絵師は前原自久斎、和歌は法橋である里村 仍春の筆跡である。

境内にある山王権現社には、大石良欽(良雄の祖父)が寛文 5 (1665) 年に寄進した手水鉢、大石良雄と大石頼母助が寄進した石灯籠などが残され、市の文化財指定をうけている。また、現在は赤穂市立歴史博物館に保管されている木造不動明王立像と木造毘沙門天立像は、もと神護寺にあったもので平安時代後期の作と推定され赤穂市の指定文化財となっている。

④5 中山 大避神社

祭神は秦河勝。境内には妙見堂・天満神社・荒神社がある。拝殿には画師・奉納年ともに不明であるが、大石主税良金の絵馬 1 面がある。

④6 西有年 大避神社

祭神は秦河勝で、境内社に天照皇大神・菅原道真・素戔鳴命・牛頭天王・少将井宮などが合祀されている。

絵馬堂には法橋である北条文信の画による赤穂義士画像図絵馬がある。奉納年は不明であるが 30 面が現存しており、すべてに「法橋文信」の銘及び落款が見られる。画面には名前・石高・役職・辞世の句なども書かれている。

④7 黒尾 須賀神社

有年牟礼の黒尾の山裾に祀られた小社で、祭神は須佐之男命である。境内拝殿に掲示されていた嘉永 2 (1849) 年奉納の義士画像図絵馬は、平成 8 (1996) 年 3 月に赤穂市指定文化財に指定された。現在は、適切な保存を目的として赤穂市立歴史博物館に保管され、代わりに原寸大のレプリカパネルが展示されている。

絵馬は 49 面の人物絵馬と 1 面の奉納額で構成され、絵師は京狩野派の菅原永得である。各絵馬には享年や辞世の句も記されているため、四十七士のうち 46 人が判別可能で、吉田忠左衛門の絵馬が欠落していることがわかっている。義士に加えて矢頭長助・萱野三平・橋本久蔵の 3 人が「義士一列」として加えられている。旧赤穂郡内に所在する 24 の義士画像図絵馬のうち最古のものである。